

事例 農産物の生産から朝市での販売体験等を通して地域の農業について学ぶ (兵庫県加西市富合小学校)

富合小学校は、のどかな田園地帯にあり、そうした環境を活かして子供たちが地域の農業について考える体験学習を実施しました。自分たちで作った野菜を朝市で販売する体験学習を起点として、地域の農業について児童自らが調査して、考える活動を展開しています。

■活動の概要

富合小学校での農業体験学習は、5年生を対象に平成12年度より取り組まれています。12年度は、校区内にあるJAの朝市を見学、そこで感じた様々な疑問をもとに「野菜作りの工夫」「値段の秘密」「売るときのサービス」などの課題を設定して、朝市で調査したり、農産物の値段等を比較するためスーパーで聞き取り調査を行うなど、課題の探求を行いました。

そして農業普及センターの指導の下で白菜などの冬野菜の生産に取組み、それだけでなく自分たちで作った野菜を朝市で販売しました。販売に当たっては、価格の調査やチラシの作成、配布を児童自が行い、さらには看板、ポスター、野菜料理のレシピを作るなど販売に工夫をこらしました。12年度の最後には、次年度に引き継げるよう、自分たちの活動をビデオレターやパンフレットにまとめました。



農家のおじさんに聞き取り調査



「桃子野朝市を開こう」の活動風景

翌13年度は、12年度の活動に触発され、4月には朝市の見学をし、トマト、ナスといった夏野菜の栽培に取り組みました。そして収穫した野菜を7月には朝市で販売しました。子供たちの間から朝市での販売体験を通じて農業の採算性について疑問が湧いてきました。また、地域の農家に直接話を聴く機会をもつことになり、その結果「高い農機具代」「後継者不足」「収入の不安定さ」など、地域の農業の現状を把握することができ、そこから「加西市の農業をどうしていけばいいのか考えてみよう」という課題を創り上げていきました。

この課題追求のため農機具代などの経費を減らす方法はないか調べる「経費探偵団」、農業を楽に楽しく出来る技術はないか調べる「最新技術研究所」など7つの課題別にグループをつくり地元農家やJA、農業高校など農業関係機関の協力を得て、それぞれに取りまとめを行いました。そして13年度の最後には、より自分たちの考えを深めるため、自分たちの考えを農業関係者や消費者に聞いてもらう発表会を開催しました。また、朝市の参加農家には朝市に関する自分たちの考えを報告する機会を得ることができました。

■取り組みの成果

「野菜の栽培」「朝市への参加」「農家調査」など、児童の思いを受けとめた様々な体験活動を取入れて展開していくことで、学習活動に意欲的、主体的に取り組む態度が育ってきて、そうした学習態度が他の学習にも生きています。

また、農業の苦労や厳しさ、工夫、そして喜びが体験を通して実感でき、地域の農業を知るとともに、地域の農業を大切に思い、自分たちの力で地域をよくしていこうという地域の一員としての自覚が芽生えてきました。このことにより地域の農業者に自らの農業のあり方について考えるきっかけを与えました。

そして、地域の様々な人々と関わるなかで、児童のコミュニケーション力が育ち始めるとともに、地域の人々や保護者の学校に対する協力体制が強まりました。

